

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.5.30-6.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

13:1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。

13:2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。

13:3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

13:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、

13:6 不正を喜ばずに真理を喜びます。

13:7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。

全ての賜物よりも「まさる」のが愛です。愛がなければあらゆるものが無価値になるとパウロは言っています。もちろんそれは聖霊によって神様が語らしめたもので、神のみこころです。

寛容、親切、自慢せず、高慢にならず、礼儀に反せず、利己的でなく、怒らず、人の悪を思わず、不正ではなく真理を喜び、すべてをがまんし、信じ、期待し、耐え忍ぶ…愛とはそういうものだとありますから、この際に自分をよく省みる必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 火曜

I コリント



13:8 愛は決して絶えることがありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。

13:9 というのは、私たちの知っているところは一部分であり、預言することも一部分だからです。

13:10 完全なものが現われたら、不完全なものはずたれます。

13:11 私が子どもであったときには、子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どものことをやめました。

13:12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。

13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

そして「愛は…絶えることが」ないので、もしも何かの理由で誰かを愛せなくなったとしたら、それは愛ではなかったというべきでしょう。ここでの愛は原語では「アガペー」であって、それは無条件の愛です。私たちはこの愛を神様からもらって、(すべてが無価値にならないように) 他人を愛する必要があるのです。また愛せるようにしていただけるのです。

「その時には顔と顔を合わせて見る」と、イエス様にお会いする再臨のことが書かれています。そのときには地上の知識も預言も何もかも、イエス様によって教えられるでしょうから、必要なくなり、「すたれる」のです。ですからどんなに特別な賜物

も天に持って行くことはできませんし、その必要もありません。しかし、愛の思いとその行動は永遠に続くのです。もちろん信仰も、そして主にお会いする希望も続きます。

永遠に残るものを追い求めましょう。主から愛をいただき、愛せなくなってしまった人をも愛しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 水曜

I コリント



14:1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。
14:2 異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。
14:3 ところが預言する者は、徳を高め、勤めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。
14:4 異言を話す者は自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。
14:5 私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。
14:6 ですから、兄弟たち。私があなたがたのところへ行って異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなたがたに何の益となるでしょう。
14:7 笛や琴などのいのちのない楽器でも、はっきりした音を出さなければ、何を吹いているのか、何をひいているのか、どうしてわかりましょう。
14:8 また、ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、だれが戦闘の準備をするでしょう。
14:9 それと同じように、あなたがたも、舌で明瞭なことばを語るのであれば、言っている事をどうして知ってもらえるでしょう。それは空気に向かって話しているのです。
14:10 世界にはおそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことば

など一つもありません。
14:11 それで、もし私があることばの意味を知らないなら、私はそれを話す人にとって異国人であり、それを話す人も私にとって異国人です。
14:12 あなたがたのばあいも同様です。あなたがたは御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会の徳を高めるために、それが豊かに与えられるよう、熱心に求めなさい。

「愛を追い求めなさい」というのは、ここまでの結論であり、またこれから各論を語るための基礎となるものです。預言と異言のすばらしさや用い方も、愛を動機として行うなら、どうすべきなのが教えられています。
ところで、「異言は3世紀頃にもう止んでしまった」という教派・神学があります。彼らは現在「異言」と言われているものを認めません。またある教派では異言を尊重するあまり、「異言を語らなければ、聖霊に満たされていない」と言っているところもあります。この異言の問題はそのように非常に混乱が起きやすいテーマであり、コリントの教会もまさにその混乱があったようです。
大切なのは聖書から聞き、聖書から逸脱しないこと、そして愛を持って対処するということです。それは異言以外のあらゆる「御霊の賜物」にいうことです。
パウロは異言を肯定しますが、それよりも預言がまさっていると考えています。なぜなら預言は教会の（人々の）徳を高めるからです。この「徳を高める」とは原語では「オイコドメオウ」ということばで、私たちがよく「建て上げる」という意味で使うことばです。人を建て上げて徳を高めて霊的成長を促すことは大切な愛の行いなのです。そのような交わりをしていきましょう。
「黙示や知識や預言や教えなどによって話さな

いなら」とありますから、異言以外の賜物を持った人も必要です。またそのような内容の文書が主の導きによって厳選されて、後に聖書となりました。ですから私たちにとっては「聖書によって話さないなら」ということになります。異言に限らずあらゆる賜物は、神の言葉である聖書の裏づけと力によって用いられる必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 木曜

I コリント

14:13 こういうわけですから、異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。

14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。

14:15 ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう。

14:16 そうでないと、あなたが霊において祝福しても、異言を知らない人々の座席に着いている人は、あなたの言っていることがわからないのですから、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。

14:17 あなたの感謝は結構ですが、他の人の徳を高めることはできません。

14:18 私は、あなたがたのだれよりも多くの異言を話すことを神に感謝していますが、

14:19 教会では、異言で一万語話すよりは、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五つのことばを話したいのです。

14:20 兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事においては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい。

14:21 律法にこう書いてあります。「『わたしは、異なった舌により、異国の人のくちびるによってこの民に語るが、彼らはなおわたしの言うことを聞き入れない。』と主は言われる。」

14:22 それで、異言は信者のためのしるしではなく、不信者のためのしるしです。けれども、預言は不信者でなく、信者のためのしる

しです。

14:23 ですから、もし教会全体が一か所に集まって、みな異言を話すとしたら、初心の者とか信者でない者とかがはいつて来たとき、彼らは、あなたがたを気違いだと言わないでしょうか。

14:24 しかし、もしみな預言をするなら、信者でない者や初心の者がはいつて来たとき、その人はみなの人によって罪を示されます。みなにさばかれ、

14:25 心の秘密があらわにされます。そして、神が確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう。

異言の起こりは使徒の働きに記されているペントコステの出来事で、「分かれた舌が現われて…他国のことばで話しました。」とあるものです。それはバベルの塔以来、言語の違いによって分断されていた民族・国家・文化を越えて、福音が届くという意味なのです。ですから異言について論ずるときはまず、あらゆる人々に届くかどうかを問われます。

またそれとは別の機能で与えられているのが、13章にある「御使いの異言」で、他の人には意味がわからないものです。しかし本人にとっては、主との親しい祈りだという感覚があります。

このような異言は意味がわからないのですから、わかるように解き明かす必要があります。解き明かすならば、それは預言—すなわち神のことばを預かり、人々に伝えること—になります。ですから必要なのは預言なのです。すなわち神のことばなのです。「預言をするなら…ひれ伏して神を拝むでしょう。」とあります。

これは4節から考えると、教会の徳を高めるためです。賜物は教会の徳を高めるためであり、そのためには預言すなわち神のことばを語り合うことこそが大切なのです。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

I コリント



14:26 兄弟たち。では、どうすればよいのでしょうか。あなたがたが集まるときには、それぞれの人が賛美したり、教えたり、黙示を話したり、異言を話したり、解き明かしたりします。そのすべてのことを、徳を高めるためにしなさい。

14:27 もし異言を話すのなら、ふたりか、多くても三人で順番に話すべきで、ひとりとは解き明かしをしなさい。

14:28 もし解き明かす者がだれもいなければ、教会ではだまっていなさい。自分だけで、神に向かって話しなさい。

14:29 預言する者も、ふたりか三人が話し、ほかの者はそれを吟味しなさい。

14:30 もしも座席に着いている別の人に黙示が与えられたら、先の方は黙りなさい。

14:31 あなたがたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。

14:32 預言者たちの霊は預言者たちに服従するものなのです。

14:33 それは、神が混乱の神ではなく、平和の神だからです。

聖徒たちのすべての教会で行なわれているように、

14:34 教会では、妻たちは黙っていなさい。彼らは語ることを許されていません。律法も言うように、服従しなさい。

14:35 もし何かを学びたければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、妻にとってはふさわしくないことです。

14:36 神のことは、あなたがたのところか

ら出たのでしょうか。あるいはまた、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか。

14:37 自分を預言者、あるいは、御霊の人と思う者は、私あなたがたに書くことが主の命令であることを認めなさい。

14:38 もしそれを認めないなら、その人は認められません。

14:39 それゆえ、わたしの兄弟たち。預言することを熱心に求めなさい。異言を話すことも禁じてはいけません。

14:40 ただ、すべてのことを適切に、秩序をもって行ないなさい。

「すべてのことを、徳を高めるために」とあります。それは何としても忘れてはならない目的です。ですから教会では、セルでも会議でも、もちろん礼拝でも、「スムーズにいった」「たくさんの方が来た」「時間通りに終わった」などということよりも重要なことです。その点でどうであったかともいつも問う必要があるのです。

コリントの教会ではその目的がずれてしまい、自分の賜物発表の場になっていたようで、先を争って自分の主張をしていたようです。パウロは「順番に」と言わなければならないほどでした。「すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができる。」とパウロが言うように、大切なのは教えることではなく、「学ぶ」こと「勧めを受ける」ことなのです。

世の中では教え語る人の方が優れているように考えられますが、教会ではそれを聞いて成長するほうが大切であり、その出来る人が優れているのです。

またコリントではある夫人たちの質問や発言のために秩序が乱されていたようです。パウロはその事態を改善するため、当時の習慣に即して彼女たちに控えるように諭しています。彼女たちも異言のように、自分の徳を高めるためではなく、自

分の誉れが目的であったのでしょうか。

最後に「自分を預言者、あるいは、御霊の人と思う者は」とあります。「わかっている、見えている、与えられている、教えたい」という人は、独善的になりやすいので特別に注意する必要があるからです。「私は御霊に満たされている」という人でも、「認められません」ということがあるのですから、誰でも謙遜になり、パウロを通して主から教えられたことを「認め」ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 土曜

I コリント



15:1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。

15:2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことはしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。

15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、

15:4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

15:5 また、ケバに現われ、それから十二弟子に現われたことです。

15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

15:7 その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。

15:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。15:9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。

15:10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。

15:11 そういうわけですから、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

この後の12節に「…どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。」とありますから、この章では復活を否定する異端的な人々に対して書かれていることが分かります。

教会の礼拝に集う人々には、未信者や求道者の方もいますから、聖書の考えとは違う人々とも親しい交わりをします。しかし聖書の教えすなわち教理に関しては、ノンクリスチャンに合わせて妥協するなどということはありません。

またもしかしたらコリントの教会のように、クリスチャンになっているはずの人々から、聖書にない主張を聞くようなことがあるかもしれません。そのときも「同じ兄弟姉妹だから彼らの意見も取り入れてあげなくては」などと言ってはならないのです。

神のことは人間の意見で変えてしまうなら、それは人間の考えになってしまいます。人間の考えに立つてしまうなら、歯止めは利かなくなります。救いも永遠の命も、神の愛も消えてしまいます。いや、神様ご自身もわからなくなってしまうでしょう。「人の意見を取り入れよう」というのは、愛でも何でもありません。神の永遠の愛から人を引き離してしまうことです。

ですからパウロも「復活はない」という人々に対して、「そういう人もメンバーにいるのだから、その意見を取り入れていきましょう」とは言いません。すでにわかっているようなことでも、福音の基本から語っているのです。

このように教会では、機会を見つけては福音の基礎すなわち教理を確認してゆく必要があります。「分かっているから今さら必要ない」とは言えないのです。

またパウロは単に教理で終わることなく、自分自身の証をしています。確かな救いの教理と自分

自身の救いの証…。それらをいつもしっかりと持っています。

ちなみに2章の「救われるのです。」ということは現在形で書かれていて、ギリシャ語の現在形は「救われているのです。」と訳せることばです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 日曜

I コリント



15:12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。

15:13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかつたでしょう。

15:14 そして、キリストが復活されなかつたのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。

15:15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。

15:16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。

15:17 そして、もしキリストがよみがえらなかつたのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。

15:18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。

15:19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。

パウロは32節では、「もし、死者の復活がないのなら、『あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。』ということになるのです。」と言っています。復活というのは単に教理や遠い先の問題ではなく、現在の問題であり、私たちの生き方や教会のあり方に関わってくる、身近な事柄なのです。

コリントの教会も、「死者の復活はない、と言っている人」がいたので、人間的な尺度でしか物事が進まず、その結果として混乱を招いたのでしょう。

復活こそ永遠の命の証しであり、神の力の表れであり、福音の真実性であり、聖書の無誤性と一体のものです。そして私たちにとっては、死をも乗り越える希望であり、それだからこそすべてに優る価値なのです。

復活というものを単に象徴的に解釈しようという人々もいます。「弟子たちが献身的にイエスの教えを広めていったことは、まるでイエスが復活したかのような」という理解です。または「目に見えない霊だけが復活した。」と理解する人々もいました。しかしどれも現実の復活とはかけ離れています。

これらの場合パウロは、「私たちの宣教は実質のないものになり」、「私たちは神について偽証をした者」となり、「信仰はむなしく」、「私たちは一番哀れな者」になってしまうのだと言っています。

普通に考えても、復活さえも実現できない神が生命を含めた万物を創造できるはずがありません。そんな神を信じてても何の希望もありませんし、そのような人生であったなら生きて来た意味もないでしょう。

復活は神の力であり、私たちの希望であり、永遠の保証です。もっと復活を希望として話題にし、喜びとして分かちあっても良いのではないのでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

